

大腸癌研究会『規約改訂委員会』

第2回会議（2019年7月4日；浜松町コンベンションホール 6F 大会議室 B）
議事録

■出席者（敬称略、五十音順）

- ・ 委員長：上野秀樹
- ・ 委員：味岡洋一、池 秀之、石原聡一郎、伊藤雅昭（欠席）、猪股雅史（欠席）、浦岡俊夫、大植雅之、岡島正純、金光幸秀（代：志田 大）、河内 洋、絹笠祐介、九嶋亮治、幸田圭史、小林宏寿、斎藤 豊、島田安博、関根茂樹（欠席）、田中信治、村田幸平、八尾隆史、山口研成、山口茂樹、山田一隆、他オブザーバー10名
- ・ アドバイザー：固武健二郎、富田尚裕（欠席）、橋口陽二郎（欠席）
- ・ 事務局：岡本耕一

■会議内容

1. 委員長挨拶

学術誌『大腸がん perspective』に、「大腸癌取扱規約一次期改訂に向けて」の原稿を規約改訂委員会・規約委員長の連名にて投稿したことが報告された。

2. プロジェクト研究の成果として規約改訂に反映される内容の展望（括弧内は発表者・敬称略）

(1) 「結腸癌の至適腸管切離長に関する前向き研究（上野）」

国内研究において 3010 例が集積されたことが報告され、現時点での解析結果の一端が紹介された。国際研究の解析後に、プロジェクト委員会において規約に反映できる形にまとめ、本委員会に諮る予定であることが報告された。

(2) 「pT1 大腸癌のリンパ節転移の国際共同研究（上野）」

リンパ節転移の新しいリスク因子を検討する pT1 癌 2000 例を対象とする本邦と英国の共同研究であり、浸潤先進部の組織型の評価基準など、規約に規定すべき因子が存在するかを検討することが報告された。

(3) 「右側結腸癌のリンパ節郭清に関する研究（山口）」

右側結腸癌のリンパ節転移の解剖学的な分布状況の詳細を後ろ向きに検討し、動脈のみならず、静脈との位置関係を加味した「大腸のリンパ節分類」の表記を提案する予定であることが報告された。

(4) 「大腸癌腹膜播種の Grading（固武）」

腹膜播種の Grading の妥当性の後方視的な再評価と、前方視的に集積されたデータの解析によって、客観性と再現性に優れた腹膜播種の Grading 分類を提案する予定であることが報告された。

(5) 「肛門管癌の病態解明と Staging に関する研究（山田）」

多施設集積データの後方視的な検討結果として、扁平上皮癌では T4 の細分類により予後予測精度が高まること、腺癌では外腸骨リンパ節を所属リンパ節に含めることの妥当性が報告された。

(6) 「卵巣転移、鼠径リンパ節転移の取り扱い（絹笠）」

多施設集積データの後方視的な検討結果として、卵巣転移は腹膜播種との関連が高く P1 と相似すること、鼠径リンパ節転移は両側転移や側方リンパ節を伴うことが多く、根治的郭清後の治療成績が紹介された。

(7) 「虫垂癌の臨床病理学的研究（村田）」

虫垂癌の現規約と TNM 分類に関する問題点が解説された。次期規約では grading や M 分類に関する記載を加える予定であることが紹介された。

3. 第2回会議のまとめと今後の予定

委員長より、次回の会議においてプロジェクト・委員会研究の規約改訂に反映される内容の展望の把握を終了し、以後は終了した研究の成果を適切に規約に反映する作業を逐次行うことが説明された。また、各委員に対して、現規約の問題点の把握に努めていただきたいとの依頼があった。